

マサバ太平洋系群の資源状況及び諸問題

令和 7 年 6 月 12 日

水産総合研究センター

1 資源の状況(「令和 6(2024)年度マサバ太平洋系群の資源評価」より)

(1) 資源量の推移(図 1)

○2004～2017 年は、豊度の高い年級群(2004, 2013)の加入により増加。

○2023 年の資源量は 122 万トン・・・資源は 2019 年以降減少傾向

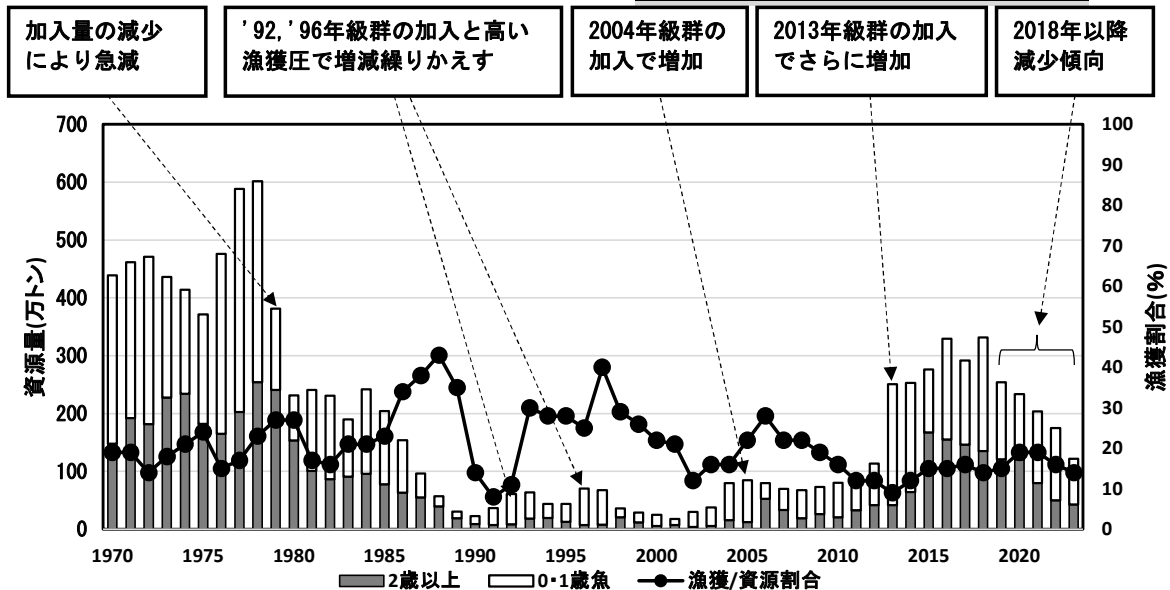


図 1 マサバ資源量と漁獲割合(漁獲量/資源量)の推移

(2) 漁獲量の推移(図 2)

○漁獲量は概ね資源量と同期して推移し、2018 年以降減少傾向。

○黒潮が北偏した 2022 年以降、大幅に減少。

○2023 年度の漁獲量は 13 万トン・・・2013 年以降最大の不漁

○2024 年度は、2023 年度をさらに下回る不漁になる見込み。

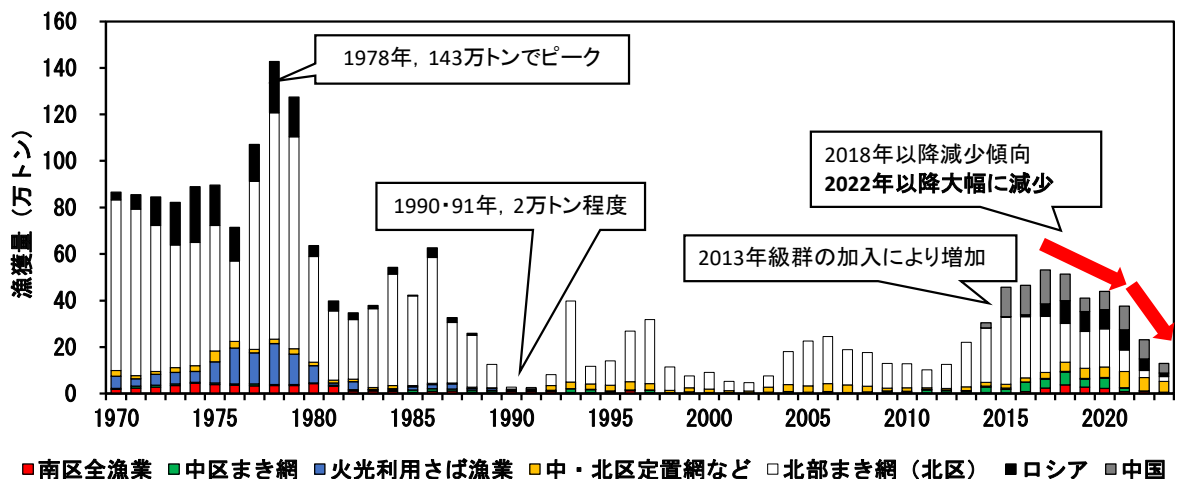


図 2 マサバ漁獲量(漁期年: 7 月～翌年 6 月)の推移

2 マサバ太平洋系群をめぐる諸問題

(1) 令和7年度漁期の太平洋さば TAC(漁獲可能量)の大幅減少

○水産庁は、TAC を 13.9 万トン（前年度比 6 割減）とする案を示した。この背景には、評価手法の国際基準への見直しと併せて、データの更新・修正(※)によって近年の資源量が大幅に低く見積もられたこと（図3）がある。

※近年のマサバ資源量が下方修正された主要因

・伊豆諸島海域におけるたもすくい CPUE や、日本の太平洋側でのマサバの卵出現量などの資源量指標値が、2 年連続で低水準だった。

・中国やロシアの漁獲物の年齢構成データを反映した結果、中国船では想定以上に若齢魚の漁獲が多いことが明らかとなった。

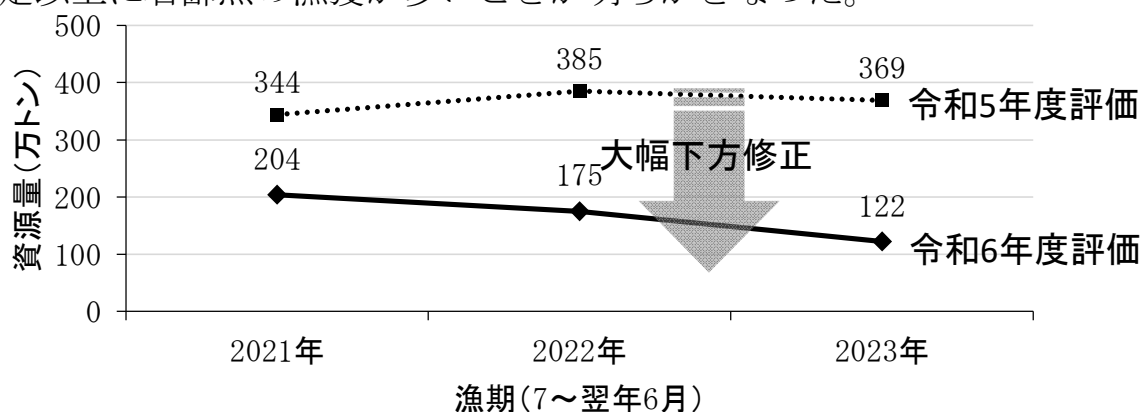


図3 令和6年度と令和5年度の資源評価（水研機構）

(2) 黒潮流路の状況

○2022 年以降、黒潮続流の北偏・沿岸寄り傾向と親潮の弱まりにより、東北海域の水温が高くなり、マサバの南下が阻害されたことも不漁の一因と考えられる。2025 年 4 月現在、北偏傾向はやや緩やかになっており、この状況が続けば、来遊量が多少増加することが期待される（図4）。

また、5 月 9 日に気象庁から、「黒潮大蛇行が終息する兆し」について発表があったが、再蛇行する可能性も見据え、今後数ヵ月は注視していく必要がある。

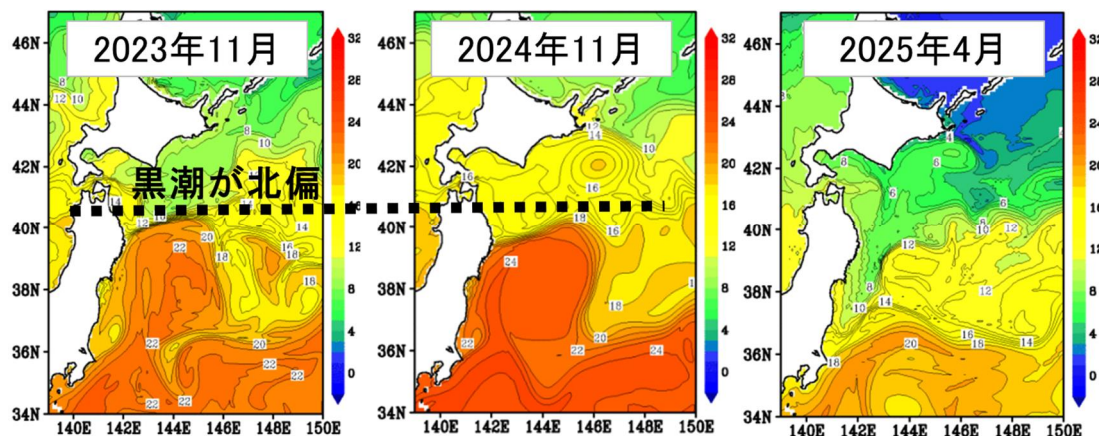


図4 東北海域における水温の推移（水研機構 FRA-ROMS II）